

せみしぐれ／たくさんの蝉が、  
こちらで鳴きやんだかと思う  
と、あちらでまたひとしきり盛  
んに鳴くようすを時雨にたと  
えた言葉。大音量で蝉の声  
が聞こえ、本格的な夏の訪  
れを感じさせます。

# らしく

自分らしく、  
粋なくらし

## CLOSE UP

「命」を守る、記憶をつなぐ  
平成30年7月  
豪雨災害を  
忘れない



### 広島防災学園

小中高生が防災について学び、発信



### 矢野豪雨かみしばい製作委員会

「平成30年7月豪雨災害」を風化させないために  
地域ぐるみで意識を高め合う



### 早稲田学区自主防災連絡協議会 (わせた自主防)

防災に対する住民の意識を高め、  
まちの魅力につなげる

## 連載

▶らしくっレポート 災害報道の在り方 ～「命を救える報道」を目指して～

▶らしくっコラム 近年の豪雨災害を教訓とした様々な取り組みを活かすために ▶ようこそ！公民館へ～佐伯区内公民館～

▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶Hmi助成団体決定！ ▶Hmi助成支援団体のご紹介 ▶情報の森 ▶プラザ通信



## 小中高生が防災について学び、発信

CLOSE  
UP

### 「命」を守る、記憶をつなぐ 平成30年7月豪雨災害を忘れない

令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とした能登半島地震が発生。広島も幾度も自然災害に見舞われています。その時の教訓を生かし、防災に関する活動をしている団体を紹介します。

メンバーの皆さん

## 広島防災学団

### 若い世代の防災意識を高め、 家庭から地域へ

「平成26年8月20日広島市豪雨災害」や「平成30年7月豪雨災害」で被害を受けた広島。この災害経験を活かし、いかに防災に



▲ 新聞紙でスリッパを作成（みんなで防災プロジェクト）

役立てるのかを考える中、令和2年に広島市安佐北区の落合小学校の総合学習で「防災マップ」を作ったメンバーが中心となって結成されたのが「広島防災学団」です。被災地に隣接し、防災に対する意識が強い安佐北区落合地区で活動しています。

「当時、立体的なハザードマップを作るにあたって講師を務めてくれたのが、防災士の柳迫長三さんを中心とした広島市防災士ネットワークの皆さんです。小学生だった僕らにも、分かりやすく、興味を引くように教えてくれました」と話すのは代表の松原健太郎さん。

防災マップ完成後も、柳迫さんをはじめ、防災士ネットワークとの交流は続き、防災について色々教えてもらい、さらに防災士の資格取得についてアドバイス、サポートを受け、松原さんをはじめ3人が防災士の資格を取得しました。

「若い世代の防災意識を高めるための方法を考えていた時に、小学校の防災授業での講師依頼がありました。そして子どもたちの防災意識が高めれば、自然と家庭内で防災についての会話も生まれ、家庭から地域へと広がりをみせるのでは、と思いました」と柳迫さん。

それぞれの思いが重なったことで、防災に対する世代間のつながりが生まれ、活動がスタート。松原さんが小学校卒業後、メンバーの進学先は別々になったものの活動は継続。現在、当時のメ



▲ 広島テレビのイベント「みんなで防災プロジェクト」の様子

ンバーを含め中学生、高校生など14人が活動、ほぼ全員が防災士の資格を取得しています。

### 防災を分かりやすく、子ども目線で発信。 地域防災で世代をつなぐ

活動は、若い世代にも防災に興味や関心を持って欲しいと、地域での交流啓発活動に積極的に参加しているほか、SNSを通して、避難時に役立つ情報等、さまざまな発信を行っています。また広島市防災士ネットワークが活動する場にも参加し、防災講座の講師を務めたり、メン



▲ 絆まつりでの活動の様子（安佐北区高陽町）

バーで考案した防災ゲームなど、防災の要素を取り入れた自主企画も立案しています。特に、防災という言葉を使うと、どうしても難しい印象を与えてしまう。そんな時は、例えば新聞紙でスリッパや雨具を作る事を覚えていると、いざという時に役に立つなど、堅苦しくなく分かりやすい言葉で、若い世代がどうすれば興味を持ってくれるのか、そんな視点を持ちながら日々活動しています。

「僕らはまだ難しい専門用語などを知らないのに、大人の人に上手く伝えることができていいのか不安な時もあります。ただ、メンバーは部活の仲間より身近で、家族には話しにくい事も気軽に話ができる、仲の良い関係です。そんな仲間たちと、これからは落合地区に留まらず、安佐北区、さらには広島市内の同世代に防災の情報を発信していければと思っています」と松原さん。次世代を担う彼らの活動が、私たちの防災意識のさらなる向上につながっていくのではと思います。広島防災学団の活動はInstagramで発信中です。是非ご覧ください。



@HIROSHIMA\_BOSAI\_GAKUDAN.HBG

# らしく 自分らしく、 粋なくらし

## contents

Vol.69  
蟬時雨号  
2024.7

### 特集

#### 01 「命」を守る、記憶をつなぐ 平成30年7月豪雨災害を忘れない

##### ▶ 広島防災学団



「みんなで防災プロジェクト」ステージ出演の様子

##### ▶ 矢野豪雨かみしばい製作委員会



矢野公民館で行われた紙芝居上演会の様子（令和6年1月）

##### ▶ 早稲田学区自主防災連絡協議会（わせだ自主防）



実際に  
かまどベンチを使用

#### 05 らしくレポート ひろ記者が行く

##### ▶ 災害報道の在り方 ～「命を救える報道」を目指して～

#### らしくコラム

##### ▶ 近年の豪雨災害を教訓とした様々な取り組みを活かすために 広島工業大学 環境学部 地球環境学科 田中 健路 教授

#### 06 ようこそ！公民館へ

##### ▶ 佐伯区内公民館

#### 07 人材バンク 名人 宝人 達人

##### ▶ 手染と手縫いの手作りネクタイ 小林 朝子さん ▶ カーボンニュートラルにつながるゴミ分別・リサイクル方法 吉村 隆文さん

#### 09 Hm助成団体決定！

#### 10 Hm助成支援団体のご紹介

##### ▶ 牛田ほおずき姫探検ラリー

#### 11 情報の森

#### 15 プラザ通信

# 「平成30年7月豪雨災害」を風化させないために地域ぐるみで意識を高め合う

## 矢野豪雨かみしばい製作委員会

### 子どもたちの体験を基に紙芝居を製作

令和4年「平成30年7月豪雨災害」で大きな被害を受けた広島市安芸区矢野地区で、この災害を風化させまいと地元住民が立ち上がり「矢野豪雨かみしばい製作委員会」は発足しました。

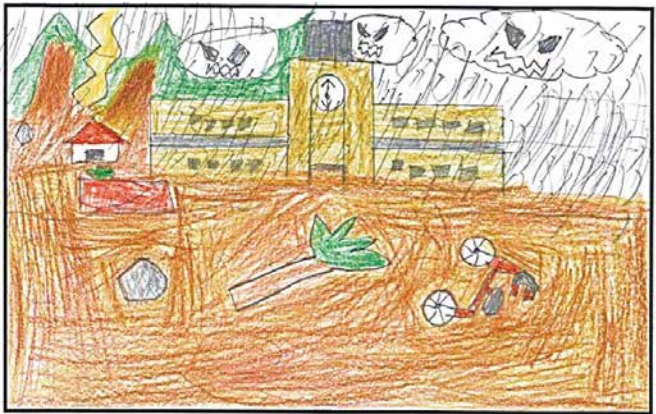
矢野地区では土砂崩れや土石流で多くの家が倒壊。道路も崩落し、土砂に埋まった川は道路との区別がつかないほどに。矢野小学校の校庭にも土砂が流れ込みその量は鉄棒の高さに達したほどでした。避難所での生活を余儀なくされた住民はもちろん、家は無事だったが食料が手に入らないなど、被災地の生活は過酷な日々。避難所になっているため小学校が休校になり、遊び場をなくした子どもたちはストレスを感じるようになったといいます。

そんな壮絶な思いを経験した子どもたちの記憶を基に製作を始め、令和6年1月、多くの人の思いが詰まった紙芝居が完成しました。地区内の3小学校を対象に、災害当時1年生だった児童（製作時6年生）110人に任意で当時の様子を募集。「雨がどんどんひどくなって怖かった」「土砂で流れ込んだ小学校が忘れられない」など、寄せられた言葉やエピソード、絵を基に組み立てました。また紙芝居の絵は矢野中学校の美術部員が引き受け、近隣の高校にも声をかけたところ、安芸南高等学校から「授業の一環として関わらせてほしい」と打診があり、集まったエピソードや絵の分類などを担当し、合同で完成させました。

「思い出すのはとても苦しい作業。正直どれくらい反応があるか不安でしたが思った以上にあり、子どもたちにも伝えたい思いがあるんだと感じました」と、思いをはせる代表の太田郁恵さん。



▲ 安芸南高等学校の生徒とメンバーの皆さん



▲ 小学生が描いた災害時の様子

### 紙芝居をきっかけに防災について話してほしい

完成した紙芝居は令和6年1月に矢野公民館でお披露目となりました。約20分の上演は語りや登場人物の声、音響など全てをメンバーが担っています。

太田さんは「たくさんの人に見てもらうことが重要だと思っています。紙芝居を見て、感じたことを共有し、話すことが大事。この紙芝居をきっかけに、家族の会話で防災について話し合う時間が増えることを願っています」と期待。今後は貸し出しも視野に活動の場を広げていく予定です。

災害が起き、地域連携の大切さを痛感したという皆さん。矢野学区では高校生が防災士の資格を取得するなど、防災の意識は高まっています。自然と共存する上で意識を持続していくために、「地域ぐるみで未来に繋げる」という矢野地区の皆さんの強い思いを感じました。



▲ 完成した紙芝居「あの夏を忘れない」

# 防災に対する住民の意識を高め、まちの魅力につなげる

## 早稲田学区自主防災連絡協議会(わせだ自主防)

<https://www.waseda-jisyubo.net>



### 地域のさまざまな団体が協力してまちづくりと防災を進める

早稲田学区自主防災連絡協議会(わせだ自主防)は、早稲田学区内の町内会からの代表者をはじめ、体協・女性会・青少協などの地域団体、小学校・中学校・PTA・広島女学院大学などの教育機関、早稲田公民館・早稲田集会所といった施設管理者などで構成されており、広島市東区早稲田学区で自主防災活動を行っています。

平成12年6月に発足した「早稲田学区社会福祉協議会」で、平成18年から地域住民自らが「まちづくりプラン」の策定を開始。5年周期で見直しを図っている中で、「平成26年8月20日広島市豪雨災害」が発生しました。「三方を牛田山などの山に囲まれた早稲田学区内でも、将来、同様の災害が起きる可能性がゼロではない。住民たちの防災・減災意識を高める必要があると感じました」と会長の西田志都枝さん。

### 住民ひとり一人が意識するための「わせだ防災プラン」

その後、平成30年3月に学区内の全世帯に「わせだ防災マップ」を配布しました。同年7月に、「平成30年7月豪雨災害」が発生。学区内でも、がけ崩れや土石流が数カ所発生し、4棟が被災しました。住民たちの危機意識もより高まり、これまで取り組んでいた福祉のまちづくり活動や防犯活動、子育て世代の活動に加えて、住民たち自身が意見を出し合い「わせだ防災プラン(地区防災計画)」の作成に取り組みました。プランは、「在宅避難・分散避難」「子どもの防災教育」など課題を18つのテーマに分けて示しています。さらに早稲田学区約2,500世帯に配った家庭版には、世帯別



▲ 「防災まちづくり大賞」表彰式の様子(令和6年2月)

の避難計画シートを添えるなど、住民ひとり一人が防災について意識するように工夫しています。「何時、どんな形かは分からないけど、災害は必ずやってくる



▲ かまどベンチ(牛田東第三公園)

はずです。人口減少や高齢化の中でどう対応しないといけないのか。いったんプランを策定したけど、本当にそれが正解なのか。そこを第三者の視点で評価してもらうために、防災まちづくり大賞に応募しました」と西田さん。わせだ自主防の『「日常に+防災を」「わせだ防災プラン」による地域全体での防災まちづくり』は令和6年1月、総務省消防庁主催の「第28回防災まちづくり大賞」で、日本防火・防災協会長賞を受賞しました。

その評価は一つの結果として形になりましたが、わせだ自主防の皆さんは慢心する事なく、日常生活の中で住民がより防災意識を高める取り組みを計画、実行しています。学区内のほぼ中央に位置し、普段から住民になじみのある牛田東第三公園に、災害時にはかまどになるベンチを2基設置。日常生活の中で潜在的に防災について触れる機会を作りました。今後は、災害対応自動販売機の設置も計画しています。

「受賞は素直に喜ぶけど、あくまで通過点。防災に強いまちづくりを行うことで、まちの魅力にもつながるはず。これから、どんな情報をどんな形で発信していくかも、わせだ自主防の役割だと思います」。いつ起こるか分からない自然災害、地域住民を守るために日々奮闘する皆さんの活動はこれからも続きます。

